

ふわふわ言葉になるように

浅間中学校1年

「なぐるよ」という言葉で言い合っている場面に遭遇しました。この言葉に対して「じゃあなぐれば」とあおりを返し、さらに相手が怒っていました。周りにも人がいて何人かで二人に「やめなよ」と言いました。二人の近くに行き、話をした人もいました。それでも止まりませんでした。周りのみんなはとてもソワソワしているように見えました。あおった子はニヤニヤしていて、あおられた子は怒った顔をしていました。あおられた子は最終的に胸のあたりをなぐって、さらに足をけりました。僕はとっさにあおった子のうでを引っぱり二人の距離を離しました。時間になると五分ぐらいだったと思います。引き離れた後もあおられた子は怒った顔をしていました。

こうなってしまった原因はいくつかあると思います。一つ目は、そもそも「なぐるよ」などの強い言葉で、相手が嫌な思いをする言葉を言わなければ良かったと思います。なぜなら、言われたら傷つく言葉を言わなければけんかにならなかったからです。自分の思いをコントロールしたり、言い方を変えたりすればけんかにならなかったと思いました。例えば、深呼吸をして自分の気持ちを落ち着かせたり、自分が嫌だったことを伝えて針の形をした言葉を避けたりすることです。

二つ目は、あおってしまったことだと思います。あおるほうは相手の怒った反応を楽しんでいるからニヤニヤしていたと思うし、相手に勝てると思うからあおったのだと思います。例えば、先生や尊敬する人に対してあおることはしません。あおると相手は嫌な気持ちになるし、余計に怒りが増します。だから、あおらなければ良かったと思います。

三つ目は、手を出してしまったことだと思います。相手を傷つけることはだめです。相手はもちろん嫌です。どんな理由だろうとだめです。

このようなことが原因でけんかになってしまったと思います。この三つに共通するのは、相手が嫌な思いをするということです。まずは自分が言われたらどんな思いをするのかを考えると良いと思います。自分の言葉がどんな形をしているのか、針の形をしていないか、これを考えて行動すれば、けんかなんて起こらないと思います。手を出してからや、あおってからけんかを止めてもおそいです。だから次は、あおる前に「そういう強い言葉を言っちゃいけないよ」「何が嫌だったの？」などと言ってけんかを防ぎたいと思います。

僕には五歳下の弟がいます。一緒にゲームをして遊びます。ゲームで勝つと、つい僕は弟をあおってしまいます。そして、弟は泣いてしまうときがあります。僕は弟のむかついた顔を見るとおもしろくなります。だから、あおってしまいました。弟に負けることなんかないからあおることができるのです。この日常生活を思い返すと自分自身が加害者になっていました。だから、あおってしまう気持ちはとても分かりました。自分は相手の怒る様子が楽しいけれど、相手の気持ちはどうなのかを考えていませんでした。でも、弟は泣くほど悲しんでいます。あおりも、針の形をした言葉だと気付きました。一人でも悲しい思いをしている人がいたらだめだと思います。相手を傷つけてしまったらすぐにあやまり、自分だけじゃなく相手も笑顔になるようにしたいと思います。

学校の出来事で日常生活を見返すことができました。これからは、強い言葉（針の形をした言葉）を聞いたら、すぐ「そういう強い言葉を言っちゃいけないよ」などと言い、けんかを未然に防ぎ、自分が加害者にならないように、わたあめのようなふわふわ言葉を使っていきます。